

❖ 県北保健所管内のインフルエンザ患者の報告数が、第3週に警報レベルの目安となる30人を超え(定点あたり)、前週の2.6倍以上に急増しています。

県内でも会津地区に次いで2番目に多くなっています。

これまでのインフルエンザ迅速診断検査ではA型よりB型の患者数が1.4倍多くなっていますが、A型とB型で症状の出方や重症度にほとんど違いはないとされています。

また、RSウイルス感染症が流行しているほか、咽頭結膜熱やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で小流行が続いています。

❖ 外から帰ったら、しっかり手洗い、うがいなどの感染予防対策を続けましょう。
人混みの中での飛沫感染予防にはマスクも有効です。

🌞 今月のトピックス

インフルエンザについて続報Q&A

＜Q1. 風邪とインフルエンザの違いは？＞

● 風邪の症状は鼻水や喉の痛みなどの局所症状が主ですが、インフルエンザは、38℃以上の発熱や咳、喉の痛み、全身の倦怠感や関節の痛みなどの全身症状があります。

また、風邪は、一年を通しひくことがあるのに対し、インフルエンザは1月～2月に流行のピークがあり、最近は、4月、5月まで散発的に流行することもあります。

＜Q2. インフルエンザはどうやってうつるの？うつらないようにするには？＞

● インフルエンザは飛沫感染と接触感染の2種類があります。うつらないようにするには、これらの2つの感染経路を断つことが大事です。

- ・人が多く集まる場所から帰ってきたときは、手洗い、うがいを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・普段から栄養と睡眠を十分に取って、抵抗力を高めておくことも発症を防ぐ効果があります。

＜Q3. インフルエンザで症状が重くなりやすい人は？＞

● 高齢者、乳幼児、肺疾患や心疾患、糖尿病などの持病のある方と言われています。心配な場合は主治医にご相談ください。

＜Q4. どんな症状が出たら、どの医療機関にいけばよいの？＞

● 目安としては、比較的急速に38℃以上の発熱があり、咳や喉の痛み、全身の倦怠感を伴う場合はインフルエンザに感染している可能性があります。重症化になる前に、周りに人にうつさないようにマスクをして、近くにある内科、小児科を受診しましょう。

＜Q5. インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは？＞

● 熱が下がっても2日程度は他の人にうつす可能性があります。感染予防のため、熱が下がって症状が治まっても、2日ほどは自宅療養することが望ましいでしょう。部屋の換気を心がけ、咳が出るときはマスクを着用し、「他の人にうつさない」ことが大事です。
(厚生労働省HP「インフルエンザ一問一答」参照)

各施設での感染症対策について！

県北保健所では、各施設向けの感染症予防対策チェックリストを作成しています。厚労省のマニュアルと併せて、ぜひお役立てください。

◎ 県北保健所ホームページ

「感染症予防チェックリスト(高齢者福祉施設、児童福祉施設、障がい者福祉施設)」

◎ 厚労省ホームページ

「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

「保育所における感染症対策ガイドライン」

「インフルエンザ施設内感染予防の手引き」

医療機関の方々へ！

「百日咳」が五類感染症(全数把握疾患)となり、「風しん」については、患者の氏名、住所等を直ちに届出するようになりました。診断した場合は、保健所へ届出をお願いします。

◎ 厚労省ホームページ 感染症法に基づく医師の届出のお願い(届出基準、様式)